

2/107

奉天全省現勢

REEL No. 1-0868

0006

自序

曩ニ奉天諮議局籌辦處カ地方事情調査ノ爲メ委員  
一百五名ヲ官選シテ各地ニ派遣シ去ル四十年十月(光緒三十  
三年九月)ヨリ翌年八月ニ亘リ奉天省内ノ状況ヲ調査セシ  
メ集メテ奉天諮議局籌辦處調査報告書ト題シ今  
春之ヲ刊行セリ

就テ其内容ヲ窺フニ固ヨリ遺憾トスル所尠カラズ然レモ滿  
洲ニ於テ清國人ノ手ニ依リ一時ニ斯カル統計的大部ノ報  
告書ヲ蒐集シ得タルガ如キハ實ニ空前ノ事業ニシテ其  
功カ寔ニ偉ナリト謂フベシ

今ヤ滿洲ニ於ケル各種ノ研究ハ我國民ノ最モ切メナリ可  
ラカルノ秋ナリ仍テ茲ニ該報告書中比較的參考ニ資  
スベキ事項ヲ抜抄編成シ以テ奉天全省現勢ト名シ  
奉天總領事館新民府分館  
若シ滿洲ニ志アル者ニ對シ多クノ裨益スル所アラバ豈ニ  
獨リ予ノ満足ノミナランヤ

明治四十三年八月初六日於新民府

北條 大洋

(大連市小鉢又七支店印行)

# 百部印刷

會計課長



政務局

〆

季  
三  
十  
日  
三  
十  
日  
三  
十  
日

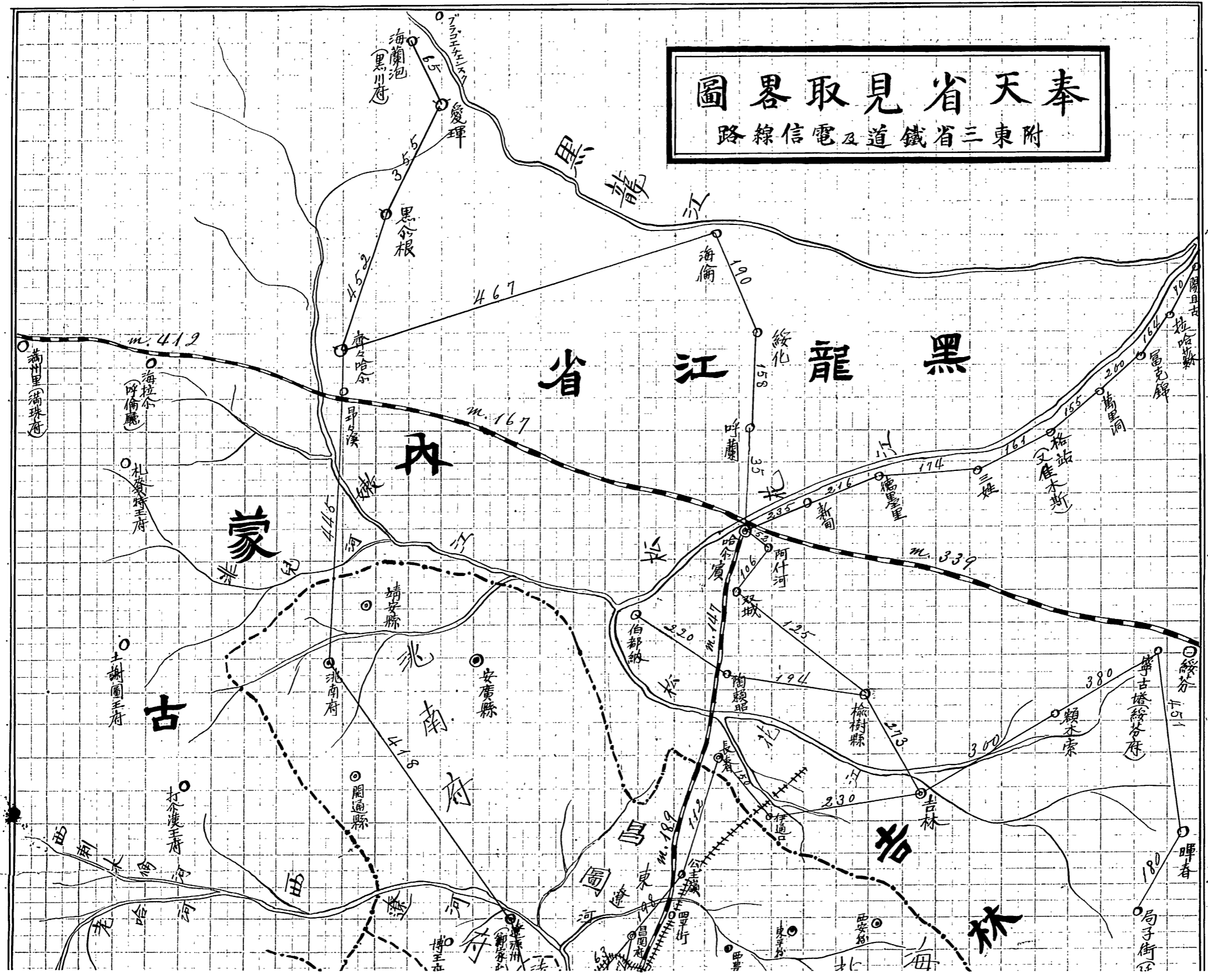
就其内若ヲ窺フニ固ヨリ遺憾トスル所新カラス然レモ滿洲ニ於テ清國人ノ手ニ依リ一時ニ斯カル統計的大部ノ報告書ヲ蒐集シ得タルガ如キハ莫ニ空前ノ事業ニシテ其可力莫ニ偉ナリト謂フべシ

今ヤ滿洲ニ於ケル各種ノ研究ハ我國民ノ最モ切メナリ可ラナルノ秋ナリ仍テ茲ニ該報告書中比較的参考ニ資スベキ事項ヲ抜抄編成シ以テ奉天全省現勢ト名ク  
奉天總領事館新民府分館  
若シ滿洲ニ志アル者ニ對シ多クノ裨益スル所アラハ豈ニ獨リ予ノ満足ノミナランヤ

明治四十三年八月初六日於新民府

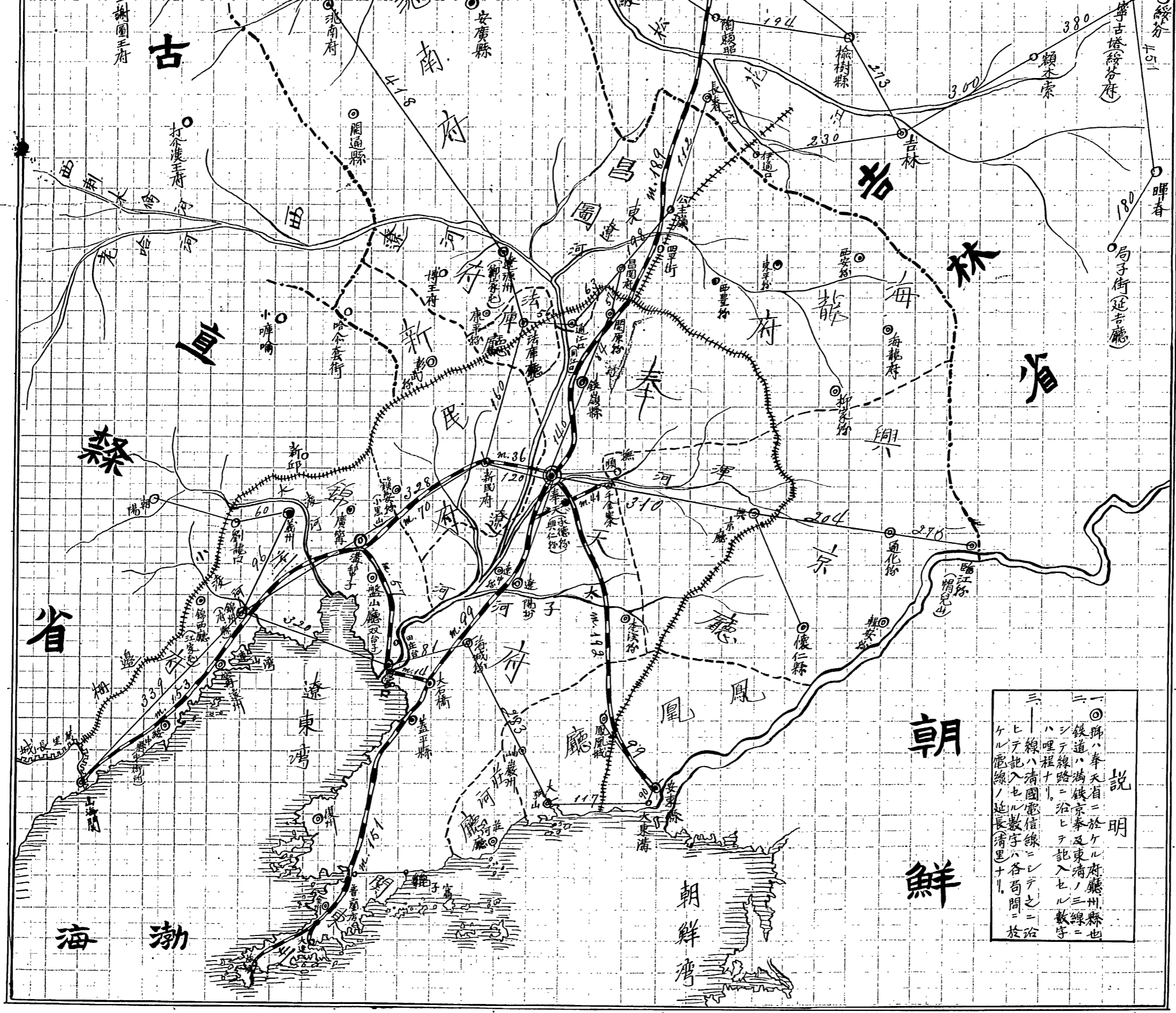
北條 太洋

(大連市小林又七支店印行)



大田和昭

水覆



一 〇 縣ハ奉天省ニ於ケル府廳州縣也  
 二 鐵道ハ滿鐵京奉及東清ノ三線ニ  
 シテ線路ニ沿ヒテ能入ル数字  
 ハ哩程ナリ  
 三 線ハ清國電信線ニレテ之ニ  
 テ能入ル数字ハ各局間ニ於  
 ケル電線ノ延長清里ナリ

政務局  
 刊  
 年

REEL No. 1-0868

0010

奉天省現勢目次

第一篇 奉天府

第一章 康德縣及興仁縣

第二章 全州

第三章 海城縣

第四章 蓋平縣

第五章 遼中

第六章 遼陽州

第七章 復州

第八章 遼中縣

第九章 本溪縣

第十章 鐵嶺縣

第十一章 開原縣

奉天總領事館新民府分館

第二篇 錦州府

第一章 錦縣

第二章 寧遠州

第三章 義州

第四章 廣寧縣

第五章 綏中縣

第六章 錦西廳

第七章 盤山廳

第三篇 新民府

第一章 新民府

第二章 彰武縣

第三章 鎮安縣

第四篇 昌圖府

昌圖府

(大連市小林文七書店印行)

第 一 章	昌圖府	四八
第 二 章	遼源州	四九九
第 三 章	奉化縣	五一六
第 四 章	懷德縣	五三二
第 五 章	康平縣	五四五
第 六 章	同江口	五五六
第 五 篇	海龍府	五六五
第 一 章	海龍府	五六五
第 二 章	東平縣	五八〇
第 三 章	西豐縣	五九三
第 四 章	西安縣	六一一
第 五 章	柳河縣	六二八
第 六 篇	洮南府	六四一
奉天總領事館新民府分館		
第 一 章	洮南府	六四一
第 二 章	開通縣	六五二
第 三 章	靖安縣	六六一
第 四 章	安廣縣	六六六
第 七 篇	興京廳	六七九
第 一 章	興京廳	六七九
第 二 章	通化縣	六九二
第 三 章	懷仁縣	七〇八
第 四 章	輯安縣	七二四
第 五 章	臨江縣	七三六
第 八 篇	鳳凰廳	七四五
第 一 章	鳳凰廳	七四五
第 二 章	岫巖州	七五九

(大連市小林文七支店印行)

目次

第三章	安東縣	七七二
第四章	寬甸縣	七八五
第九篇	法庫廳	七九五
第一章	法庫廳	七九五
第二章	莊河廳	八一七
附録		
一	奉天全省面積耕地及人口一覽表	
二	奉天全省作付穀別一覽表	
三	奉天全省礦山一覽表	
四	奉天全省家畜一覽表	
五	奉天省諮議局議員撰舉一覽表	
六	東三省清國電線一覽表	
以上		
奉天總領事館新民府分館		

(大連市小林文七堂印行)